

今月の法話 如是我聞

にやせがもん

悲願の鐘 ひがんかね

小松大聖寺教区第1組 専光寺

宮下 晴輝 みやした せいき (76)

今夏、中学2年の孫にいざなわれて広島の平和記念公園を訪ねました。あけがらすはや 暁烏敏師の門弟であつた西村見暁先生(1915-2003)の発願による「悲願の鐘(通称平和の鐘)」の下に佇み、その鐘に刻まれた「FNQΘI SATON」(汝自身を知れ)というギリシャ文字をしばし見上げていました。

この「悲願の鐘」は、1965年に「原爆被災者広島悲願結晶の会」によつて建立されたもので、その*パンフレットには、「この鐘は、「自己を知れ」の一語に、その悲願を結晶した」と記されています。これは、過ぎ去つたことでなく、今なお戦争の悲惨の中に投げ出されている、私たち皆の悲願でもあります。

私たちは、死んでいかねばならないものであり、罪をつくらずしては生きられないものです。それを知らずして生きる罪悪深重の凡夫なのです。それでも、大きな悲しみに包まれてはじめて、そんな凡夫である自己自身に目覚めることができるのでしょうか。

清沢満之先生きよざわまんしの日記『臘扇記』に「汝自身を知れ」というギリシャ語が記されています。それをそのまま刻んだこの鐘の音が、悲願の声となつて、十方世界の一人ひとりにまであまねく響きわたるとき、争いを超える道がきつと見いだされてくるに違いありません。

*真宗大谷派了善寺のウェブサイトに
パンフレットの内容が掲載されています。

